



四国ブロック



発行人：阿波谷,大原,板東,川本,澤田
事務局 〒761-2103
香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1
綾川町国民健康保険陶病院気付
副支部長/事務局長 大原昌樹・森田宛
Tel.087-876-1185 Fax.087-876-3795
E-mail oharamasaki@gmail.com

ニュースレター No.16 (2016.12)

★ 1 2016 年日本プライマリ・ケア連合学会四国ブロック支部学術大会・四国地域医学研究会・ 第 16 回愛媛プライマリ・ケア研究会 合同集会

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

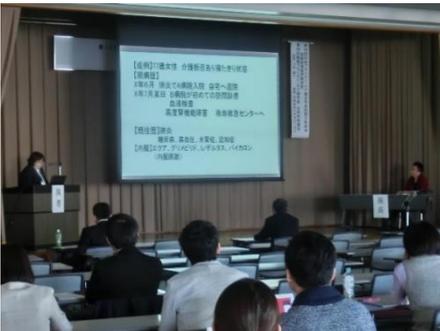


第 16 回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会・四国地域医学研究会・第 16 回愛媛プライマリ・ケア研究会合同学術集會を平成 28 年 11 月 12 日・13 日に愛媛県看護協会大研修室で開催させていただきました。

本会は四国地区のプライマリ・ケア及び地域医療に従事する方々が、年に一度成果を持ち寄り議論し、明日への診療へフィードバックする大変実践的な学術集會です。本年度も 23 題という多くの興味深い演題を応募いただきました。また、特別講演では宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授の吉村 学先生より「地域は大きな学校—ごちゃまぜ、おきざり、むちゃぶりで切り開く地域医療—」をテーマにユーモアあふれる心温まるご講演をいただきました。



また、日本プライマリ・ケア連合学会会長である丸山 泉先生には今後の学会の在り方、総合診療専門医の動向などについて将来を見据えた格調高いお話を賜りました。また、一般演題に加えてポートフォリオ大会・臨床推論と盛りだくさんの内容で会も盛況に終わることができました。学術集會の終了後には、板東浩会長のもとで行われる予定である第 8 回日本プライマリ・ケア連合学会総会の実行員会も行われました。各委員からは活発な意見が出され、来年に向けての準備も着実に進んでおります。



★2 【第1回四国地方プライマリ・ケア交流会】の案内

日本 PC 連合学会学生・研修医部会 四国支部長 (愛媛大学 5年) 田中いつみ

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 川本 龍一

平成 28 年 10 月 1 日午前中は、地域医療で活躍する四国支部の先生：愛媛大学医学部地域医療学講座：川本龍一先生、香川大学医学部地域包括医療学：窪田良次先生、徳島大学医学部総合診療医学：山口治隆先生、高知大学医学部家庭医療学：西村真紀先生から自分史と題して各先生の現在にいたるまでのお話をいただきました。各先生それぞれ総合診療委（家庭医）のゴールは同じであるもののそこまでの過程が大きく異なります。

元々は専門医でありながら総合医になった先生、地域のニーズに応じて総合診療医に辿り着いた先生、学生のころからなりたくて指導医が少ないなか家庭医になり、さらに啓蒙活動に努めている先生など様々でした。ランチオンセミナーでは、各大学から PC と関連する学生生活動に関する報告がありました。

午後からは、検診・予防医療（徳島大学：河南真吾先生）、BPS モデル（愛媛生協病院：水本潤希先生）、行動変容に関するワークショップ（岡山家庭医療センター：山内優輔・和田高平先生）が開催されました。

また、喫煙指導に関するロールプレイも行われました。この交流会について、今回は第一回ということですので、今後も各県持ち回りで是非継続していただきたいと思えます。



★3 第4回多職種連携ワークショップ

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 川本 龍一

平成 28 年 10 月 30 日 13 時より、松山大学薬学部・たんぼぼクリニックとの合同により多職種連携ワークショップを開催いたしました。

宮崎大学医学部地域医療・総合診療医学講座教授の吉村 学先生より出された終末期の高齢者をテーマに学生や医療現場で活躍する訪問看護師などの参加の下、医師、薬剤師、ケアマネージャ、看護師等に分かれ、各人がそれぞれの職種になっ



てロールプレイを演じる中で各職種への理解を深めました。

★4 徳島県内プログラムで初の家庭医療専門医誕生

徳島大学大学院総合診療医学分野 谷憲治

平成 28 年 10 月 1 日付で、徳島大学大学院総合診療医学分野の田畑良助教が家庭医療専門医を取得しました。平成 23 年に我々が徳島で初めて作成した日本プライマリ・ケア連合学会の家庭医療専門医後期研修プログラム「南阿波総合医・家庭医養成プログラム」（現在のプログラム責任者は谷憲治教授）において平成 25 年 4 月から平成 28 年 3 月まで研修を受け、平成 28 年度の試験に晴れて合格しました。

当講座のスタッフ、県立海部病院の先生方、その他徳島県内外の皆様方の支援を受けて徳島県内のプログラムで初めての家庭医療専門医の誕生となり



ました。

今後は、さらに家庭医としての知識と技能を高めていくとともに、さらなる家庭医療専門医の育成にも努めてまいります。引き続きご指導ご支援よろしくお願いたします。

★ 5 模擬授業実施（徳島大学蔵本祭高校生企画にて）

徳島大学の蔵本キャンパスで行われた大学祭（蔵本祭）にはいろいろな企画が含まれています。その中には、魅力あるで、徳島大学総合診療医学分野の谷教授が高校生を対象とする企画で2時間の模擬授業を担当しました。

将来、医療従事者を目指す県内の高校生が約50人参加しました。架空の診療所を舞台に「あなたにとっていいお医者さんとは？」と題したシナリオを準備し、高校生に「いい医師、よくない医師」について一緒に考えてもらい議論を交わしました。担当の医学科3年生との寸劇を用いて、医療従事者のあるべき姿について一緒に考える楽しい会となりました

徳島大学大学院総合診療医学分野 谷憲治



★ 6 第 8 回日本 PC 学会学術集会高松大会に向けて

四国ブロック支部事務局長・副支部長 大原昌樹

第8回日本PC学会学術集会高松大会（板東浩大会長）に向けて、四国ブロック支部40名の実行委員を中心に準備を加速しています。6月27日の実行委員会全体会の後、各担当（総務、プログラム、査読、式典・懇親会、会場・協賛）に分かれてメーリングリストなどで議論を進めています。この間、大会長、副大会長、運営事務局と井垣事務局長は、私の所属する綾川町国民健康保険陶病院に毎月集まり議論してきました。また、11月13日には、四国ブロック支部大会後に、実行委員会全体会を再度開催しました。

プログラムは、この3か月間で大きく進展しました。実行委員会企画、PC学会各委員会企画、公募企画などを阿波谷副大会長が中心になってまとめていき、日程表の概要が固まりました。

内容も、海外招聘講演、メインシンポジウム、シンポジウム、ワークショップがほぼ確定、インタレストグループや学会ジョイントプログラムなどについて現在、議論しています。

12月からはよいよ一般演題と参加登録が始まります。一般演題はできるだけ多くの方に発表していただきたいと考えています。川本副大会長を中心に査読を進めますが、大会開催が例年より1か月早いことより、1月22日には高松で査読委員会を開催することが決まっています。1月12日が一般演題締切日ですので、延長は難しい状況です。締切厳守でお願いいたします。参加登録も参加費がお得な早期割引の期間にできるだけお願いいたします。

この他、会場担当の澤田副大会長、懇親会担当の西村理事



を中心としたグループでは、四国らしい面白く楽しい企画を考案中です。是非、楽しみにしてください。

なお、宿泊施設は込み合うことが予想されます。大会ホームページでも高松市内を中心に多くの宿をご紹介します予定ですが、早めに予約していただければと思います。幸い、JR 高松駅からすぐの便利な会場ですので、少し離れたところからでも通うことも可能です。

これからも順次作業を進め、会員に役立つ充実した学術大会になるように努力したいと思いますので、皆さまのご協力・ご支援をなにとぞよろしくお願いいたします。

★7 第32回高知臨床推論ケースカンファレンスに上原孝紀先生を招聘

高知総合診療・病態診断研究会世話人 佐野内科リハビリテーションクリニック 佐野 良仁

10月30日(日)9時~12時に、上記研修会を高知大学医学部・レジデントハウス1階スキルスラボ室で開催しました。今回の特別講演には、千葉大学大学院医学研究院 診断推論学・医学部附属病院 総合診療科 未来医療研究人材養成拠点形成事業 特任助教 上原孝紀先生をお招きしました。

当日、24名の参加者が来場してくださりました。今回、上原先生の講義は、『千葉大総診で学ぶ診断推論 —診断の中核「合わない」を正しく使おう—』というタイトルでお話をいただきました。前半部分では、診断に至る過程の話の総論的な纏めの話と、その中で、内臓痛と関連痛の話がありました。虫垂炎の最初の症状がなぜ心窩部に来るのか、という話において、神経節が入っていく髄節レベルから、痛みを感知する部位の説明があり、わかりやすく大変勉強になる内容でした。

また、後半には症例のケースカンファレンスを行い、医学生を中心に双方向性のカンファレンスで診断に迫りました。症例は、50歳代後半の女性、主訴は、「受診2日前の午前1時に左後頭部痛で目が覚めた。」でした。医学生からは、単なる寝違えから、リウマチ性多発筋痛症、頸椎ヘルニア、椎骨脳底動脈解離、くも膜下出血、髄膜炎など、色々な疾患が想起されました。途中の経過から、さらに扁桃周囲膿瘍、後咽頭膿瘍、破傷風が鑑別に加わりました。

カンファレンスの詳細は紙面の都合上割愛しますが、上原先生による最終的な確定診断に向けてのプロセスには圧倒されました。診断に迫るために、筋由来の痛みか骨由来の痛みかを同定の後、頸部の等尺性収縮のさせ方によって、どこにトラブルが起きているか、筋肉の同定まで行い、最終的に身体所見から「頸長筋にトラブルがある」と判断し、画像で確認し、『石灰沈着性頸長筋腱炎』と確定しました。

高知では年4~5回、「高知臨床推論ケースカンファレンス」の勉強会を開催しております。興味のある方・参加ご希望の方は、世話人の私・佐野良仁(E-mail: sanoreha.m.c@gmail.com)まで、お問い合わせください。県内・県外を問いません。一緒に勉強したい方、大歓迎です。

次回は平成29年3月11日(土)、Sapporo Medical Academyの岸田直樹先生をお招きし、高知赤十字病院の大会議室で開催します。なお、日本プライマリ・ケア連合学会の認定医・専門医の単位も取得できます。

